

ホトケドジョウの生息地保全に向けて



ホトケドジョウは、日本固有のドジョウの仲間で、青森県を除く東北以南の本州に生息しています。兵庫県では、丹波市のわずかに5箇所確認されているだけで、ここが日本の分布の西の端になっています。ホトケドジョウは全国的に減少していることから、環境省レッドリストの絶滅危惧1B類に指定されています。丹波地域での生息地は、谷津田にあるため、雨による増水で個体が生息に適さない下流に流されたり、土砂の流入により稚魚の生息場所の陸地化が進んだりするなど、局所的な絶滅の心配ができてきました。本会では、適宜、生息地での泥すくいを行ってきましたが、平成25年度には、1箇所新たな生息地の造成を行いました。

今回、造成を行った箇所は、休耕田から流入する面積の小さいため池で、生息個体数も少ない場所です。休耕田の上流部は流速の速い小さな溪流域で、池より下流はコンクリートのU字溝となっています。増水による下流への逸出や生息地の水不足により容易に絶滅する可能性がある場所です。

これまでの定例的なフィールド調査において、水質は、水温年平均で14.2℃、pH(水素イオン指数)は6.7、溶存酸素量は94.2%であり、ホトケドジョウは冷水を好み、弱酸性で水中に溶け込む酸素量が多い場所に生息していることを確

丹波地域のホトケドジョウを守る会(ひとはく連携活動グループ)認しました。こうした結果から、造成にあたっては、生息地上流に大きな水面を作ると水温が上昇する恐れがあるため、大きさを現況ため池と同程度の面積とし、遮光ネットを掛けることで水温上昇を防ぐ工夫をしました。また、流路に丸太を千鳥状に配置することで勾配の緩傾斜化と流速を低減させました。こうした工夫の結果、造成の前後では水温、水質については特に問題はありませんでした。本年度の調査では造成地で当歳魚は確認できませんでしたが、鱗切り調査により下流の生息地から上流の造成地への移動を確認することができました。

ホトケドジョウは、里山の谷戸から流れ出す冷たい水や湧き水が流れ込む水路等に生息していることから、水環境の指標ともなる生きものであると考えています。私たちはこれからも、ホトケドジョウの生息地を守る活動をつづけながら、自然環境保全についても訴え、守り続けたいと思っています。



ハーモニー84号 ひとはく新聞 2014 3/14号



武庫川上流の河川改修

Kidsサンデー

5月4日(日)・6月1日(日)・7月6日(日)

毎月第1日曜日は、ひとはくでおもいきりしぜんがくをしよう！小さな子どもでも参加できるプログラムがいっぱいあります。ご家族みんなで遊びに来てください。



六甲山のキノコ展 2014

6月1日(日)まで

これまで6年間かけて県立御影高等学校が総合学習等の一環として調査研究を進め、採取した標本約400種600点余りを展示いたします。これだけの種類のキノコが一堂に展示される機会は、国内でもほとんどありません。NHKで紹介された「嵐キノコ」も展示します。



hitohaku news paper 兵庫立自然の博物館

発行日：2014年3月14日
編集・発行：兵庫県立人と自然の博物館 ひとはく新聞編集委員会 〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)
TEL：079-559-2001(代表番号)
http://hitohaku.jp ひとはく

